

BRIDGEPLUS

関東労災病院医療連携情報（令和6年1月号）

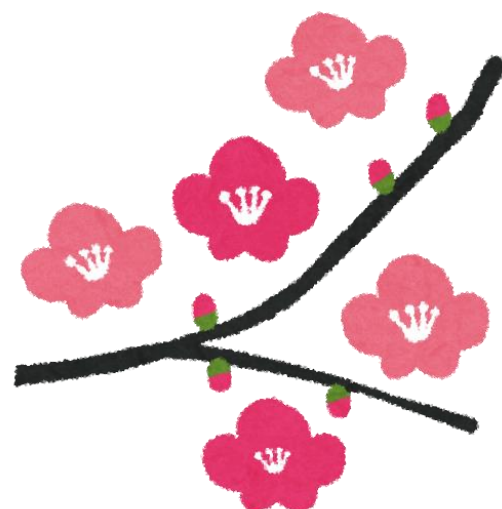
Information

□ 診療科紹介（循環器内科）

□ 診療科紹介（心臓血管外科）

□ 2月開催の医療連携講演会のお知らせ

□ 診療科紹介（スポーツ整形外科）



診療科紹介（循環器内科）



近隣医療機関との緊密な地域医療連携のもと診療にあたっています

循環器内科 部長

しばた まさゆき

柴田 正行

関東労災病院循環器内科は、川崎市、横浜市の循環器疾患急性期医療に貢献すべく、「断らない救急」を診療科の方針として日々診療しております。現在、並木副院長をはじめ、総勢9名（循環器専門医7名、内科専門医4名、日本心血管インターベンション治療学会専門医2名、不整脈心電学会専門医2名）で治療にあたっています。外来診療は循環器疾患の救急性を考慮し、予約枠を設定せず診察しておりますので是非紹介をお願い致します。また直接のご依頼もお受けいたしますので地域医療連携室までお電話をお願いします。（地域医療連携室：044-435-5031）

今回は当科で日々使用あるいは行っている最新の診断機器、治療機器、治療法についてご紹介させていただきます。

（裏面につづく）

本誌へのご意見、ご要望がございましたら、右記mailへお寄せ願います。地域医療連携の充実に役立てていけるよう努めてまいります。

発行人：地域医療連携室

☎044-411-3131

mail:renkei4@kantoh.johas.go.jp

BRIDGEPLUS

① 冠動脈CT

当院は2023年5月に導入したキャノンの最新鋭機320列、640スライスのCTを使用しています。AIによる画像再構築技術で全身の被ばく線量を大幅に低減しています。



②FFR-Angio

カテーテル検査の際、PCI適応の評価に使われる冠動脈血流予備量比（Fractional Flow Reserve: FFR）は従来、冠動脈にワイヤーを挿入する必要があり、検査に要する時間が長いなど、少なからず患者さんに負担がかかる検査でした。我々の施設では、通常の血管造影で安全に、確実にFFR評価が出来る最新のシステムを使用しています。

CathWorks FFRangio® System

ルーチンの血管造影像から人工知能と高度なアルゴリズムを組み合わせ、信頼性の高いFFRangio値を算出します。

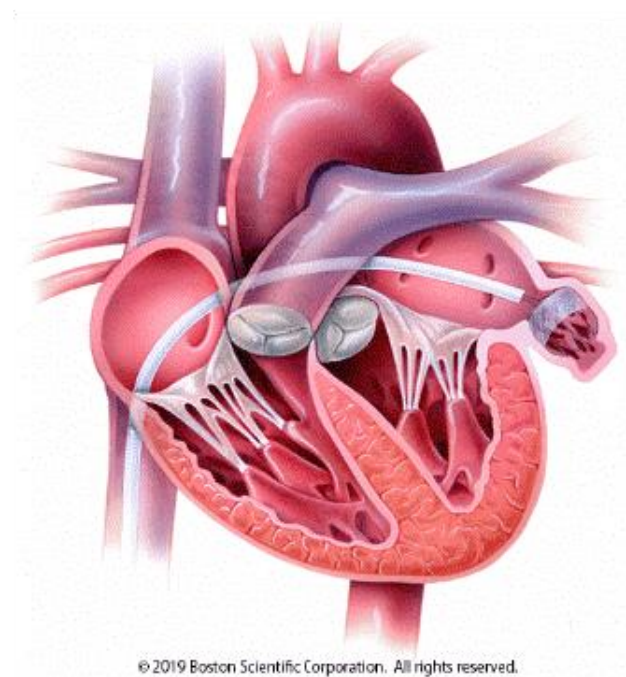
- ・ ワイヤと充血剤が不要
- ・ より多くの症例で使用可
- ・ 多枝病変の解析が可能
- ・ 検査時間の短縮
- ・ リアルタイム、オンサイト
- ・ 生理学的評価 + 解剖学的な情報提供

Medtronic | CATHWORKS



③左心耳閉鎖術

心房細動の最も重篤な合併症は脳梗塞です。一般に90%以上の血栓が左心房の中の左心耳という袋状の部屋に生じるとされています。経カテーテル左心耳閉鎖術は、開胸手術をする必要なく、カテーテルで網状のデバイスを左心耳に留置するもので、長期間の抗凝固薬の内服が難しい患者さんに適応があります。当科では渡邊副部長を中心に2023年3月に一例目の患者様に行い、以後順調に症例を重ねております。



以上、三つを紹介させていただきました。当科は心臓血管外科とも緊密な連携を図っており、週に一回の合同カンファランスで外来患者、入院患者の冠動脈、下肢血管のバイパス、弁膜症、動・静脈瘤など手術適応についてディスカッションを行い、治療方針を決定しております。今後も近隣の先生方の要望に応えるべく、診療に邁進してまいりますのでよろしくお願い致します。



心臓弁膜症、冠動脈疾患、大動脈疾患、末梢血管病変、緊急症例など幅広く対応致します。

心臓血管外科 部長 ^{たなか ゆうき} 田中 佑貴

心臓血管外科は2名体制で診療を行っております。当科は循環器内科をはじめ他科と緊密に連携を取りながら日々の診療にあたっております。一般的な心臓・大血管手術に加え胸部、腹部ステントグラフト内挿術や低侵襲心臓手術にも対応しております。また、高齢者、透析患者さんなどハイリスクな症例に対しても手術適応があれば積極的に手術を行っております。心疾患、大動脈疾患は症状が出た時にはすでに重症化していることがございます。症状が出る前に発見し治療にあたる事が重要になりますので、患者様の病態に関しまして心疾患、血管疾患が疑われた時はお気軽に相談いただくと幸いです。

当院で行なっている主な心臓血管手術

- 心臓弁膜症手術（低侵襲手術含む）
- 冠動脈バイパス術
- 心臓腫瘍摘出術
- 胸部・腹部大動脈手術（ステントグラフト内挿術含む）
- 末梢動脈手術（バイパス術、血栓内膜剥離術、急性動脈閉塞に対する血栓摘除）
- 下肢静脈瘤手術（主にレーザー治療）

心臓血管外科の外来診療日は火曜日、金曜日となっておりますが緊急の患者様に関してはご連絡いただけましたら外来診療日以外にも個々に対応いたしますので地域連携室にご連絡ください。

地域医療連携講演会

令和6年2月15日（木）

入退院支援部門（小川師長 他）

令和6年2月26日（月）

①循環器内科（並木副院長・柴田部長 他）

②糖尿病内分泌内科（永井部長 他）

令和6年2月28日（水）

整形・スポーツ整形外科クリニカルカンファレンス

（東川副院長・岩噌スポーツ整形外科部長）



アスリートの速やかなスポーツ復帰を目指して手術治療を行なっています。

さなだ たかき
スポーツ整形外科 部長 眞田 高起



当スポーツ整形外科は、日本を代表するトップアスリートからスポーツ愛好家まで、老若男女のスポーツにかかわる患者様で日々賑わっています。主に膝、足、肩スポーツ障害の治療を行っており、侵襲の少ない関節鏡を使用してスポーツ復帰のための治療に励んでいます。スタッフは8人で、膝、足、肩、股関節の専門医がおります。手術は毎日あり、手術件数は年間おおよそ1300症例です。全員が膝関節鏡手術を行い、加えて足、肩、股関節のサブスペシャリティーを有して、多くの疾患に対応させていただいております。

また、リハビリ治療にも重点をおいております。スポーツ復帰の成功の鍵は、リハビリ治療です。術後のみならず、術前からのリハビリ治療が肝心で、スポーツ疾患に精通した理学療法士がスポーツ選手の治療に携わっております。周術期患者様は特にケアが必要となっている上に、多くの手術患者の入院治療に重きを置いています。したがって、外来通院治療は通院頻度を調整しながら行なっております。外来通院時の十分なリハビリ治療のために、地域の整形外科クリニックの先生方と連携をとり合いながらリハビリ治療をすすめて参りたいと思っています。

外来診療は月曜日から金曜日まで、毎日3人の医師が交代制で診察を行なっています。膝関節疾患は常に対応可能ですが、足、肩、股関節は専門医師がいる日に来院いただけますと、対応がスムーズになります。また、当科では急性スポーツ外傷の新規患者様の診察も行うため、初診患者様の予約診療は原則行なっておりません。午前中9時から11時までに紹介状を携えて受診していただければ、診察させていただきます。しかし、多くの新患患者様が受診される日には長時間お待ちいただくこともありますし、希望医師の診察とならないこともございます。

何とぞ、ご不便をおかけしますこと、ご了承ください。これからもお支援お願い申し上げます。

